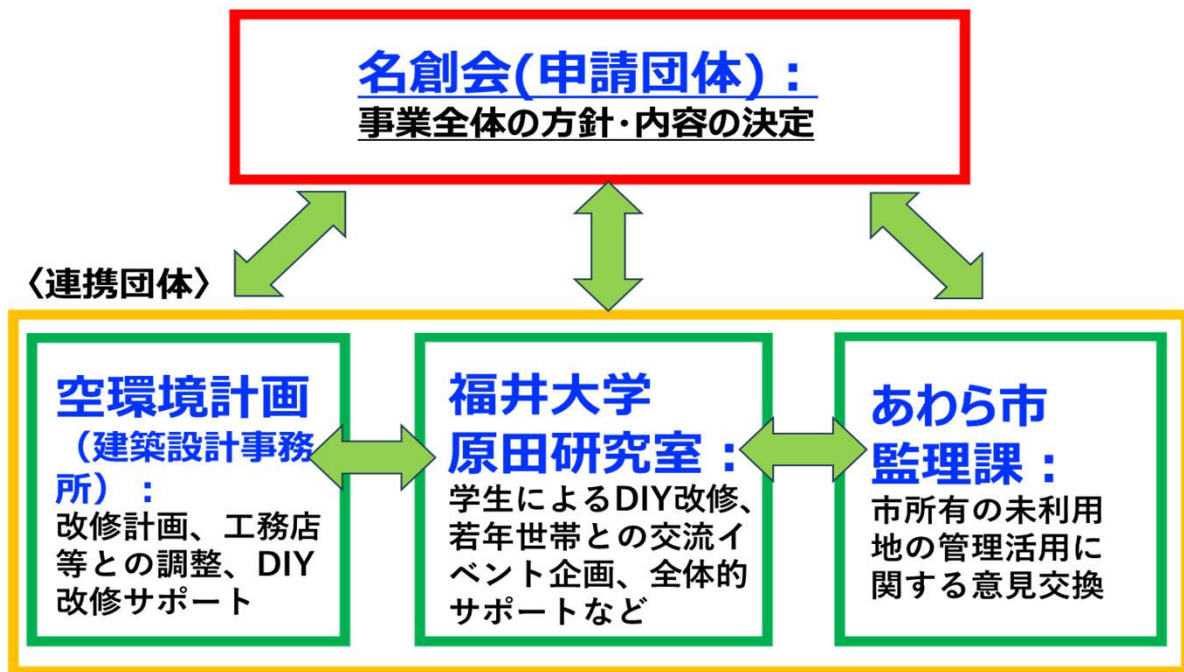


対象地域	対象地域の特性	地域が抱えている課題	主な取組内容
福井県あわら市名泉郷団地(下金屋・滝地域)	1972年に開発され、居住誘導区域外の丘陵地に位置する。居住している住宅は13.5%で、未利用地が74.2%あるが居住者の81%は定住を希望している。未利用地の多くは個人の不在地主が所有しており、居住者組織「名創会」は、2021年にNPO法人化し、不在地主からの所有地の寄付受けを検討。	居住誘導区域外に位置する住宅地だが定住希望の居住者はおり、管理放棄され、まだらに増加する低未利用地の負担が居住者にかかっている。 居住者は高齢化し、生活環境や防災面などの観点からも、今後の自律的な居住地像は描きにくい状況にある。 市所有の未利用地を新規移住者に実質無償で提供する事業もあるが、利用実績がなく、定住目的以外で団地外若年世帯との交流機会を創出し、低未利用地の管理活用と住環境の改善が必要。	●元集会所（名泉ドーム）を改修し、団地外若年世帯との交流の場・地域振興の活動拠点をつくる。 ●名泉ドームや市所有の未利用地を活用したファミリー世帯向けイベントの企画、食堂・カフェ機能の導入等。 ●不在地主所有の未利用地の雑草・樹木の管理（宅地管理事業）、市と大学が連携した自律的管理活用方法の検討

事業内容・スキーム

- 元集会所を学生によるDIYなども取り入れながら改修し、団地外若年世帯との交流や地域振興を図る。
- 市所有の17の団地内の未利用地や改修した元集会所と隣接する公園などを活用し、団地外の若年世帯との交流を意図したイベントを企画実施する。
- 不在地主所有の未利用地の雑草等の管理を行う「宅地管理事業」を継続すると共に、団地内の低未利用地の自律的管理活用について、市や福井大学と連携しながら検討を進める。



モデル事業による取組成果

宅地管理事業	拠点改修とイベントの実施	未利用の市有地の活用	団地の方向性
不在地主から79件の依頼を受け、作業を完了。	ドーム内の改修部分の解体工事をを行い、福井大学の学生でウッドデッキ等の制作を行なった。今後、屋内外で様々な使い方が展開できると考えられる。 2024年11月には名泉ドームと市所有の未利用地を使った学生によるイベントを開催し、合計48人の子供が参加し、参加者からは大変好評であった。	団地内に市が所有する17の未利用地でのオープンガーデンや、団地外周部の緑地帯で果樹栽培による収益性確保を行うことについて、申請すれば利用可能であるが、収益性を出す場合には市への賃料が発生することを確認した。	事業全体やアンケート結果も踏まえて意見交換を行った結果、団地居住者の大多数は住環境の改善に無関心であり、居住者の高齢化や減少が進む中で、自治会の区費のみでは団地を維持していくことが難しくなっており、運営体制の抜本的な改善が必要である。 一方、名創会幹部がこれまで目指してきた新規移住者の流入についても、現実的な状況も踏まえて検討していく必要があることを確認した。